

証券分野における潮流
- ISO20022/SWIFTの導入に向けて -

2009年7月8日
SWIFT ビジネスフォーラム 2009

(株)証券保管振替機構
海野 俊一郎

JASDECのサービスとシステムの現状

▶ 有価証券(国債を除く)の振替サービス

- ✓メッセージフォーマット: 独自フォーマット
- ✓銘柄コード: ローカルコード又は国際標準コード
- ✓金融機関識別コード: ローカルコード
- ✓ネットワーク: 独自ネットワーク

▶ 機関投資家取引・非居住者取引に係る事前照会サービス

- ✓メッセージフォーマット: カスタマイズしたISO15022
- ✓銘柄コード: 国際標準コードとローカルコードの併用
- ✓金融機関識別コード: 国際標準コードとローカルコードの併用
- ✓ネットワーク: 独自ネットワーク

国際標準導入の必要性

▶外国人投資家、グローバル・プレイヤーのプレゼンスの高まり

- ✓対日証券投資コストの削減と効率性向上



▶国際標準フォーマット、コード、ネットワークの導入の必要性

- ✓決済照合システムへのISO20022、SWIFTNetの導入
- ✓振替各システムへの適用も検討を開始

▶国内標準と国際標準のバランスの確保

- ✓ISO20022の開発に参画、日本固有の要求を盛り込む活動
- ✓日本独自の慣行等の見直し

現行ネットワーク概念図

独自フォーマット

ファイル伝送

ファイル伝送サーバ

株式等振替システム

第1ソケット: 決済照合(国内取引)=カスタマイズISO15022
第2ソケット: 決済照合(非居住者取引)=カスタマイズISO15022
第3ソケット: 振替システム=独自フォーマット

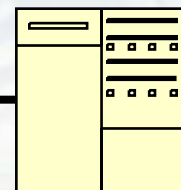
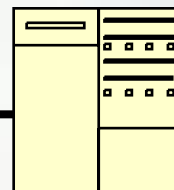
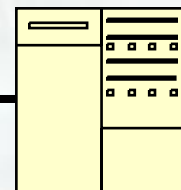
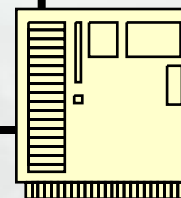
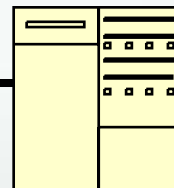
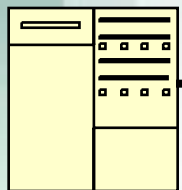
社債等振替システム

統合チャネルサーバ

オンラインリアル

決済照合システム

利用者側システム

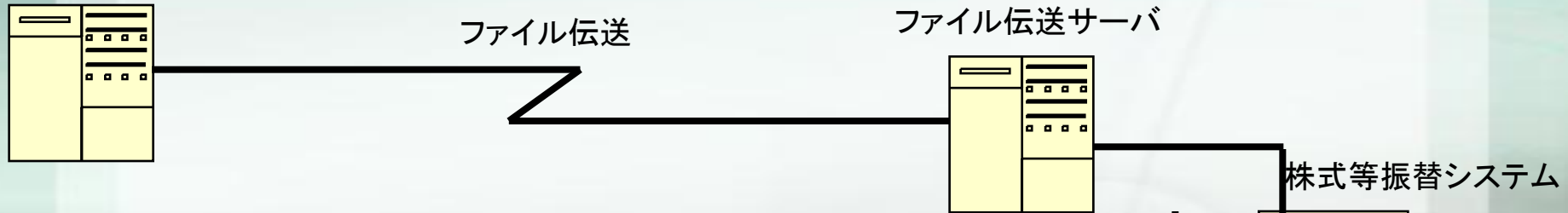


利用者側システム

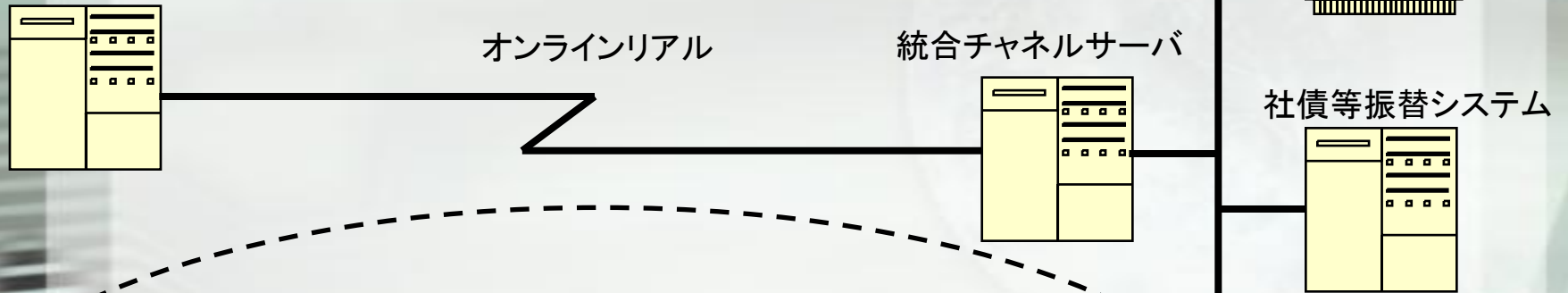


ISO20022/SWIFTNet導入想定図

利用者側システム

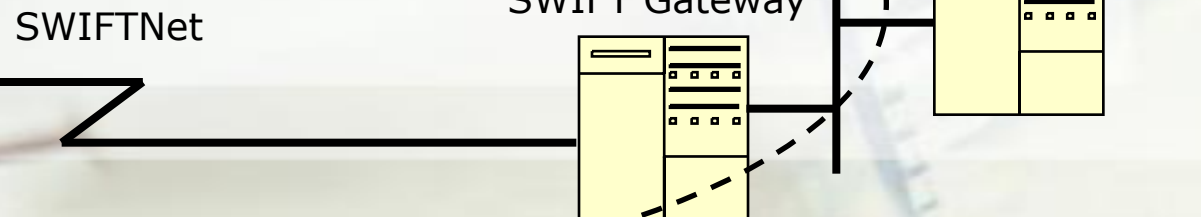


利用者側システム



決済照合 = 現チャネル第1・2ソケット: ISO20022
振替 = 現チャネル第3ソケット及びファイル伝送: ISO20022 + 独自フォーマット

利用者側システム



今後の取組み

- ISO20022の開発活動に引き続き参画
- 利用者とともに決済照合システム(国内取引)に関するマッピングの検討
 - ✓ XMLスキーマ等公開後
 - ✓ 約定照合・決済照合をあわせて検討
- JASDEC内部のシステムデザインの検討
- ISO20022/SWIFTNet導入のマイルストーン
 - ✓ 2013年 or 2014年を目途に導入